

市民環境大学OB会 ニュースレター



第55号 2025年12月18日 発行

紅葉の蓼科高原と八ヶ岳

OB会の第6回定期活動報告(放射線量・湧水量・温度)

今回のニュースレターメインニュースは年末定例となっているOB会主要活動の放射線、湧水量、温度測定の詳細な第6回定期報告です。放射線や湧水の測定活動は有志により定期的に継続測定されています。今回は昨年末の第5回定期報告のデータに続けての報告とします。

具体的な測定期間は放射線量が新たな測定開始の2024年1月から2025年10月まで、湧水量及び温度は2018年～2025年10月までです。湧水量測定時の湧水の温度及び当日の気温についても継続して報告します。以下、測定結果を順次報告します。

測定結果報告

放射線量、湧水量、水温の各測定地点、測定条件は昨年から変更されていませんが、参考までに以下に纏めます。

1. 測定条件

<放射線測定地点と測定条件>

測定地点：日野台公園、多摩平第一公園、神明野鳥公園

線量測定：日本精密機器社製の空間線量計(DC-100)

測定回数：各地点各5回測定 測定高さ：1m

<湧水測定地点と測定条件>

測定地点：黒川清流公園内4地点 ①清水谷公園 ②剣道場前 ③わきみず池 ④郷土賞橋下

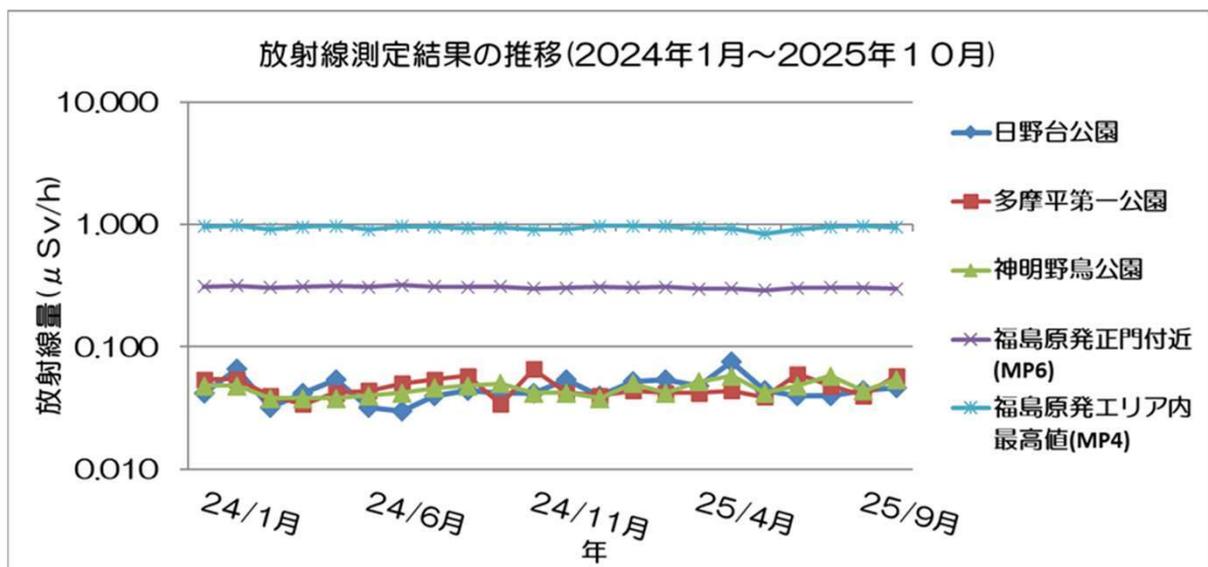
測定方法：(株)ケネック社製プロペラ式流速計(VR-301)

測定回数：各地点5回測定 流量計算：測定部流水断面と流速より計算

2. 測定結果

<放射線量>

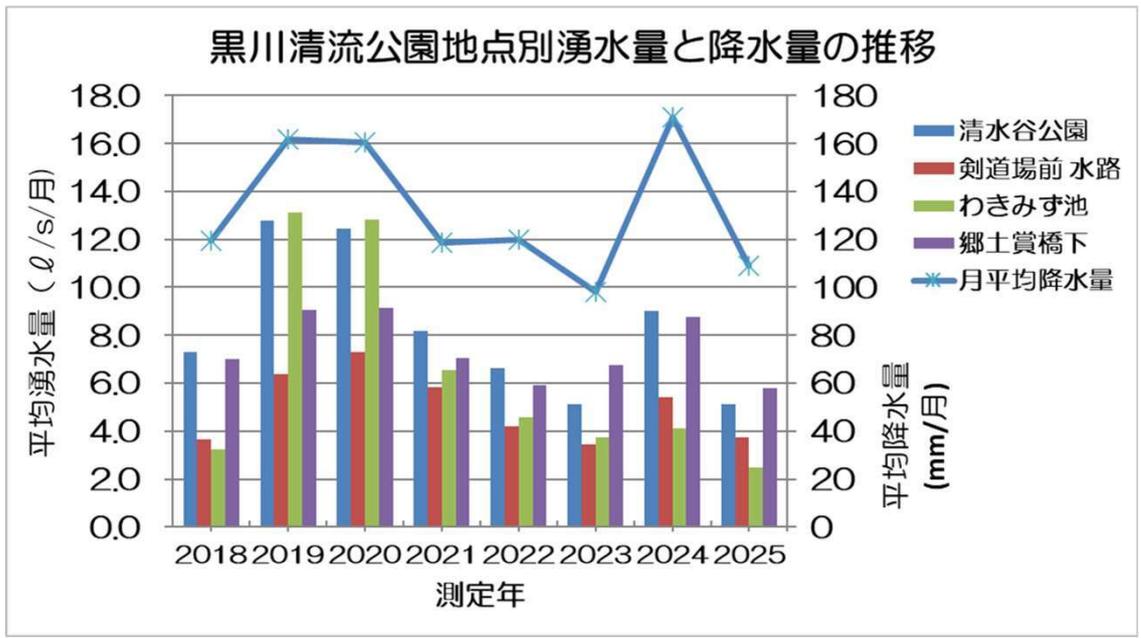
下図に昨年報告に続けてデータをグラフ化しました。縦軸を対数にして福島原発の正門付近及び原発エリア内の最高値も比較として示します。図を見るとわかるように、新測定エリアの日野台公園、多摩平第一公園、神明野鳥公園の3か所のデータはいずれも $0.1 \mu\text{Sv/h}$ 以下となっており、昨年と大きな変化はありません。



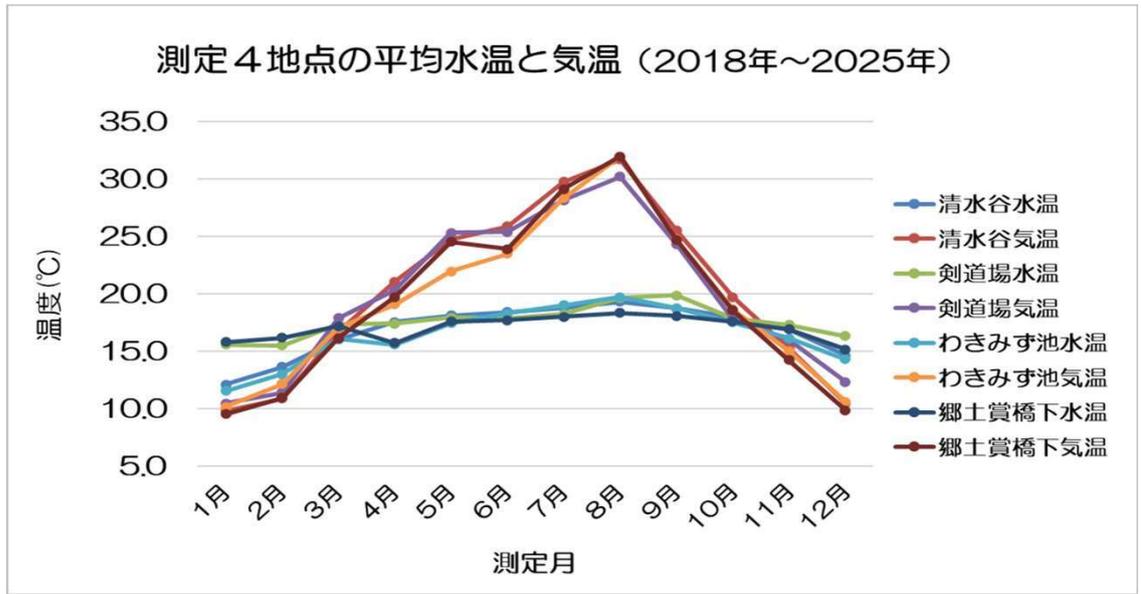
一方、放射線放出元の福島原発エリア内の状況は、原発正門前、エリア内最高値とも事故後の値に対し徐々に低下し、エリア内最高値は事故後の約1/7に低下、正門付近は約1/10に低下しました。しかし、ここ数年は測定値が横ばいという傾向が続いています。現地付近の事故前のレベルはおそらく日野市で我々が測定しているレベル程度であったと思われるため、そこまで下がるにはまだまだ途方もない時間が必要で、放射線の恐ろしさがつくづく感じられます。

<黒川清流公園湧水量と温度>

下図に黒川清流公園の4地点の湧水量の推移を示します。棒グラフが各測定場所での月平均湧水量、折れ線グラフが八王子アメダスの月平均降水量です。湧水測定はコロナ禍で測定不可となったり、イチョウの木事故での公園内立ち入り禁止措置により測定不可地点が発生したため、年間の総湧水量でなく、月平均での表示としています。



グラフで見るとわかるように月平均降水量が160mmと多かった2019、2020年は特に清水谷公園とわきみず池の湧水量が多くなっていました。しかし同レベルの降水量だった2024年の湧水量は全体に少なく、特にわきみず池の湧水量の低さが目立ちます。原因は今のところよくわかりませんが、もう少し長いレンジでみる必要があるかもしれません。



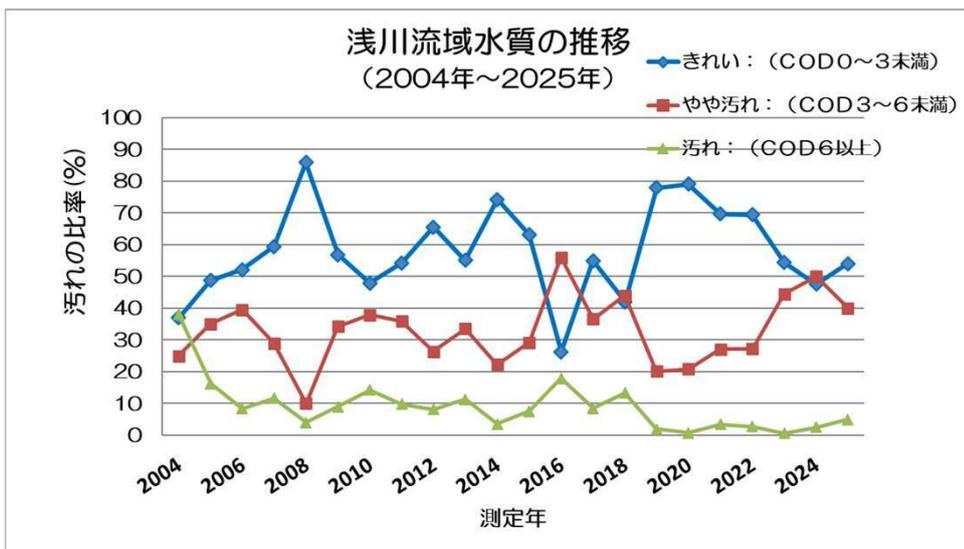
上図は昨年報告と同様、湧水測定時に同時に測定した気温と水温のグラフです。測定時期の変化を見るため横軸に測定月を取っています。

気温は当然ながら冬季は低く10°C程度であり、夏季はここ数年の酷暑の影響もあり、8月が最も高く30°C以上です。それに対し湧水の水温は年間通してほぼ15°C~20°Cの範囲で収まっています。

“身近な水環境の全国一斉調査” 浅川流域水質Map 今年も完成!!

OB会が6月に参加した“身近な水環境の全国一斉調査”の浅川流域の結果が今年も浅川流域市民フォーラムでまとめられ、2025年度版としてリリースされました。以下に紹介します。また、前回同様今年までの清浄度の推移グラフをアップデートしましたので併せて以下に紹介します。

2025年浅川流域水質Map



浅川流域水質調査開始の2004年から今年2025年までの水質の推移を左図に示しました。

COD値0～3未満の“きれい”に判定された比率は2020年あたりから低下傾向で昨年はやや汚れときれいが逆転しましたが、今年きれいの比率が54%とやや回復しました。

しかし、中央環境保全推進地区市民会議の活動紹介では昨年同様、河川敷のごみ問題が指摘されているようです。河川巡回時のごみの写真が掲載されていますが、自転車等の投げ捨てやプラスチックごみも多く、生態系への影響が懸念されます。これはモラルの問題であり、我々住民の意識を変えることが求められます。

OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・今回は特になし

OB会 例会情報 話題提供と話し合い情報

- ・9月例会： マイナンバーカードについて考える3つの話 末包通信さん 話題提供
(戸籍にふりがなを記載、マイナンバーの所在地、マイナ救急)
- ・10月例会： ヒガンバナにまつわる3つの話 末包通信さん 話題提供
(お彼岸に咲く真っ赤な花、三倍体植物、美しくも怪しげ)
- ・11月例会： 「令和のコメ騒動について考える3つの話」 末包通信さん 話題提供
(高米価と減反政策、石破首相農政転換を表明、新閣僚前政権からの転換を表明)

今回のOB会コラムは常連の別所さんです。昨年9月に多摩平第2緑地で銀杏の木の枝が落下し、歩行中だった30代の男性が下敷きとなり死亡するという痛ましい事故が発生しました。この事故を受けて緑地管理者の日野市は再発防止にむけた樹木管理体制の見直しを進めているそうですが、それに関連するご意見を投稿頂きましたので以下紹介します。

イチョウと銀杏への思い

OB会 別所 敬子

昨年末のある日、すっかり葉の落ちた仲田の森で、何かを拾っている人の姿が目にした。声をかけると、八王子からこの公園が気に入って、近くに移住し、今の時期1日に1000個を目標に2万個の銀杏を拾い集め、洗浄、乾燥後、趣味仲間に配ることを喜びとされている87歳の男性だった。年季の入ったバケツ、火ばさみ、手袋のいでたちに、つついイチョウについて質問してみた。東京にイチョウが多いのは葉も枝も燃えにくく、防火の為の街路樹として沢山植えられ、関東大震災の際にも延焼を防いだと。多摩平での事故についても聞いてみると、イチョウの枝は木肌からもわかるように折れやすく、ここでも銀杏が鈴なりにになった時には太い枝が折れて落下したことが2、3度あると。また、落下した銀杏は滑りやすく臭いため、住民から苦情が来るので国土交通省はバイパスのイチョウを適切に剪定管理していると。以前にバイパスで、赤ちゃんを抱えた女性がバス停近くのイチョウの木陰からバスを確認しながら、バスが停車位置に近づく頃には停車位置に移動される姿を目にする機会があり、バイパスのイチョウ並木は広範囲にわたって日陰を提供していることを認識した。

日野市では痛ましい事故を受けて令和6年の補正予算（1億9千万円に近い）により、緑地、公園、道路の樹木点検を行い、緊急性が高いものの剪定伐採を実施した。立ち入り禁止解除後の黒川清流公園では多くの大木が伐採され、その姿には唖然とした。

「黒川清流公園の自然」（2022年版）野鳥 ☆レンジャクとヤドリギの写真とともに ” 毎年2月頃になると、ヤドリギの実を食べにレンジャクの仲間もやってきます。 ” の記載もある。長年かけて大きく成長してきたヤドリギが消えた。レンジャク飛来時期には下の黒川清流公園と上部の多摩平緑地は立派なカメラを構えた何組ものグループでにぎわった。あのカメラのレンズを通して見たレンジャクの姿をみる機会は永久に消滅した。

何本かの大木の緑に囲まれた湧水広場は天然の安全に幼い子供が水遊びできる場所であった。緑の遮光シェルターを提供していた大木が切られ、青天井になり、今後は厳しさ増す猛暑対策を考えねばならぬのでは？。

黒川清流公園の安全性についてはスズメバチの危険を避ける為山道の通行禁止、樹木伐採作業場所近くが短時間通行禁止に。ある時期、近くの樹木伐採の音に驚いたカワセミやマガモが大池から姿を消した事があった。かなりの時間経過の後、再度姿が観れるようになった。関与部署は判らぬが、行政機関により安全には配慮されていたと思う。

警視庁によると、死亡事故のイチョウの枝は最大約16m高さから落ち、大小合わせて10本の枝が男性の上に落下したと。「ギンナンの実りがよく、かなりの重さになっていたことや、瞬間的に風が強かったため」とみている。

事故直後から市の調査に同行している日本樹木医会のある理事は「ギンナンで枝が折れることは細い枝の場合しばしばあること。ところが太い枝が連続して落ちるとするのは長い間見ているが初めて。きわめてまれなことと言える」と指摘。

報道で知った警視庁、日本樹木医会の理事と毎年ギンナン集めをされている3者の事故原因の見解は鈴なりのギンナンの落下で一致している。ギンナンの実ったイチョウへの配慮は必要であろうが。

これに対して日野市の安全対策事業の大木伐採への飛躍は素人には理解しがたい。行政と市民ボランティアの努力により長年かけて創りあげられた ” 水と緑のまち ” を標榜する日野市の誇るべき自然財産が一夜にして破壊された気がする。

日野市から市民に向けて早急な事故原因の最終見解と補正予算案事業施行に至った詳細と総括の報告がなければ市政に対する疑念は払拭されないと思う。

